

第3回検討委員会資料

1. 第2回検討委員会の概要

第2回委員会(令和5年8月21日(月))の議事録は、参考資料—2に示す通りである。会議の概要は以下の通りとなる。

検討ステップについて

- ステップ1の意識調査を踏まえてステップ2で持続可能な街路樹管理のありかたの基本的な考え方の案を検討し、この後に意見等の機会を設け、それを踏まえた案を更新して社会的合意形成を図っていくという手順を踏むべきである。

意識調査方法について

- 事前調査において一般登録モニターを活用する場合は、対象とする国道20号ケヤキ並木を知っている世田谷区民や杉並区民、通勤・通学等で対象区間や最寄り駅を利用する人の意見を把握することを検討すべき。
- 事前調査や本意識調査に用いるリーフレットには、ケヤキのことだけでなく、道路としての機能面について問題が生じていることも示すべき。
- ケヤキ並木区間を利用する方々に向け、現地でWebアンケートサイトにアクセスし、回答してもらう方法も検討してほしい。
- ステップ1の意識調査では自由な意見も記載できるよう検討すべき。

2. 段階的ステップの目標（案）

以下の①～④のステップを踏んで、**広く地域や社会の意識やメリットも含めた認識等を把握した上での社会的な合意形成**を踏まえ、具体的な対策を進めていくとともにそのルール化を図る。

段階的に設定する各ステップの到達目標

ステップ①の到達目標：

国道20号ケヤキ並木に関する意識の把握



ステップ②の到達目標：

将来のあり方に対する社会的合意形成



ステップ③の到達目標：

課題に応じた地域や区間毎の対策の試行・モニタリング



ステップ④の到達目標：

東京国道管内における対策・合意形成ルール策定

3. ステップの基本方針（案）

ステップ（段階）を踏まえた合意形成の手順 （各ステップの具体的手順・進め方案）

ステップ①：国道20号ケヤキ並木に関する意識の把握

1. 地元意見のヒアリングやモニター調査等を踏まえた事前調査の実施
2. 一般向け本意識調査（WEB、DM等）



ステップ②：将来のあり方に対する社会的合意形成

1. 意識調査結果の公表
2. 基本的な考え方（案）の作成と意見聴取
3. 基本的な考え方の公表



ステップ③：課題に応じた地域や区間毎の対策の試行・モニタリング

1. 基本的な考え方を踏まえた具体的な目標および対応策（案）の検討
2. 試行区間における現場試行（案）の検討および意見聴取
3. 現場試行・モニタリング



ステップ④：東京国道管内における対策・合意形成ルールの方針策定

1. 現場試行（案）の評価
2. 東京国道管内全体に活用できる対策・合意形成のルールを策定

4. ステップ①国道20号ケヤキ並木の意識の把握

ステップ①

1. 地元意見のヒアリングやモニター調査等を踏まえた事前調査の実施

目的: 意識調査に選択肢として挙げる、キーワードに偏向や漏れがないよう、沿道の町会長等のステークホルダーや登録モニターを対象に事前調査を実施する。



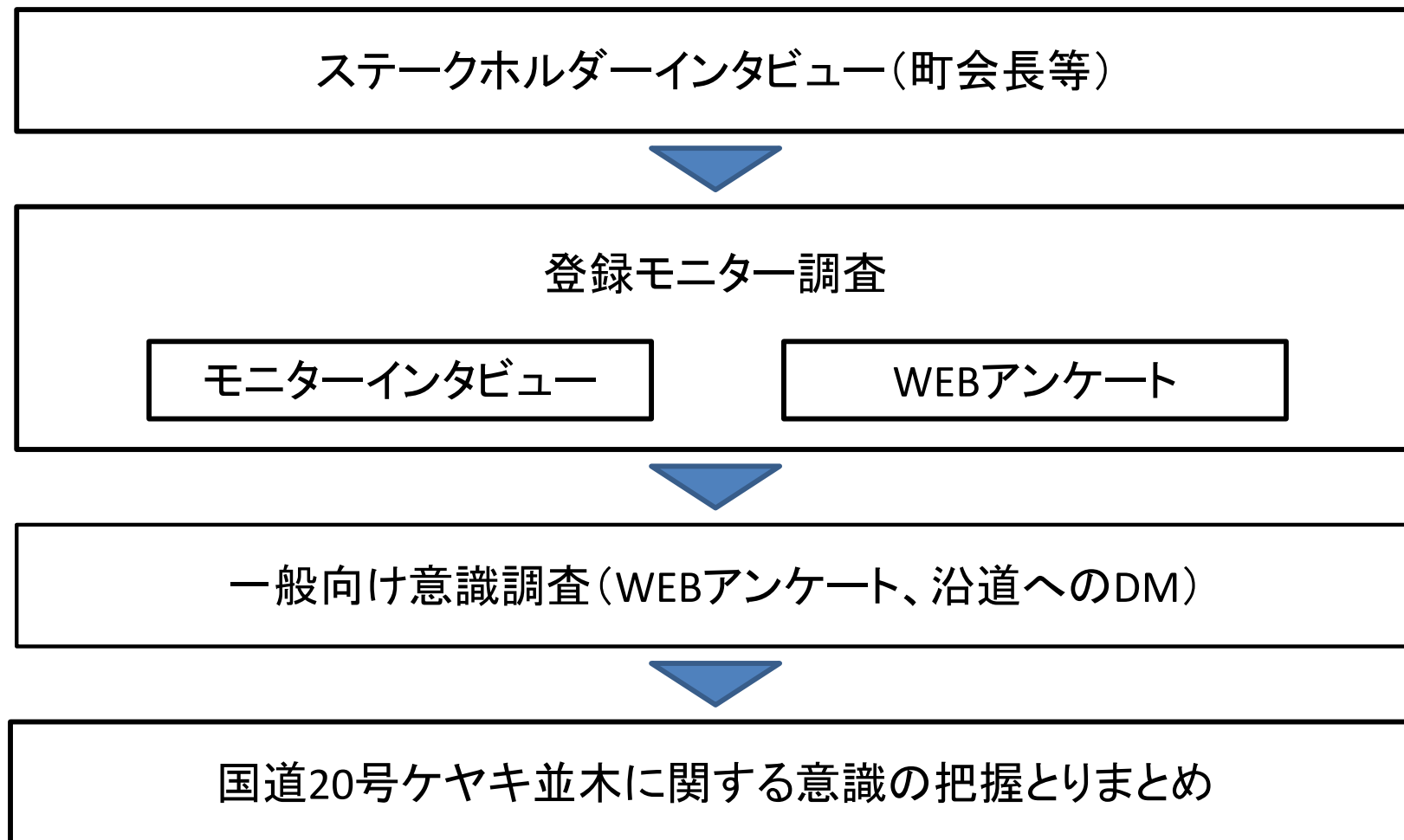
2. 一般向け意識調査（WEB、DM等）

目的: 意識調査アンケート票を作成し、WEBやDMにより、広く一般の意見を把握し、社会的合意形成に向けた意識を明確化する。

4. ステップ①の実施内容

ステップ①: 国道20号ケヤキ並木に関する意識の把握

1. 地元意見のヒアリングやモニター調査等を踏まえた事前調査の実施
2. 一般向け意識調査(WEB、DM等)



5. ステークホルダーインタビュー

ステークホルダーインタビュー(町会長等)

【実施概要】

目的	日常的に国道20号ケヤキ並木に接している町会長等に、万遍ない意識のキーワードが拾えるよう対面ヒアリングを実施
インタビュー先	・杉並区の町会長等(10/17_5名) ・世田谷区の町会長等(10/17,11/9,11/14,11/16_計64名)

【結果概要】

区分	得られた主なコメント
良い点・ 助かっている 点	・歴史的に大切な場所 ・夏場は樹木の緑陰により沿道が涼しくなる ・冬場は落ち葉により日光が差し込み暖かくなる ・木漏れ日が心地いい
悪い点・ 困っている点	・落ち葉が家の敷地まで落ちてきて清掃が大変 ・大径木した樹木は倒木や落枝が発生しやすくなるので危険も多い ・大径木化して根上りが酷い
ケヤキ並木 の将来像	・樹木的美観を損なわず維持管理をしてほしい ・ケヤキ並木を維持してほしい ・年配から若者へと地域の活動を引き継いでいきたい ・限界を超えた木は撤去して若木や大木にならない樹種に替えるのもいい

6. 登録モニター調査（WEBアンケート）

登録モニター調査

モニターインタビュー

【実施概要】

目的	国道20号ケヤキ並木に対する一般的な意識を把握するため、専門調査会社の登録モニターを活用し、モニター調査を実施
実施モニター数	・20名（沿道・沿道付近・近隣・遠方）
実施手段	・グループインタビュー

【得られた傾向】

1 ケヤキ並木に対する**関心・印象**は回答者の**拠点からの距離・頻度・形態に応じて変化する**

沿道沿い（頻度；ほぼ毎日）；ケヤキ並木に強いマイナス感情（迷惑）を有する

沿道近く（頻度；週一以上）；ケヤキ並木についての印象が薄く、自分事として認識しない

沿道周辺（頻度；月数度）；ケヤキ並木を認知、街路樹としての一般的な意識。歩車道の通行上の意識が強い

利用無し（頻度；ほぼなし）；ケヤキ並木を認識していない。歴史と課題を知ること、管理の在り方を意識

2 ケヤキ並木の**理想の状態**も、回答者の**拠点からの距離・頻度・形態に応じて変化する**

沿道沿い（頻度；ほぼ毎日）；ケヤキ以外の樹種への植え替え強く希望。美観の面でも否定的

沿道近く（頻度；週一以上）；ケヤキ自体に魅力を感じていないが、ケヤキ並木の強い否定は無い

沿道周辺（頻度；月数度）；巨木の不具合を認識しているため植え替えや安全性の向上を希望

利用無し（頻度；ほぼなし）；課題とコストのバランス。地元の人々の意向重視など

3 利用形態は異なっても**通行経験のある人は、安全リスクに関する課題を強く認識している**

【歩道】歩行者；ケヤキ根上りによる歩き難さ、樹木生育箇所（狭小部）における自転車との接触リスクを強く認識

【歩道】自転車；ケヤキ根上りによる不具合、樹木生育箇所（狭小部）における自転車同士の接触リスクを強く認識

【車道】車両；ケヤキを避ける車両が右側に膨らむ、落ち葉の水たまりなどによる危険を認識

4 **リーフレットを読むことで課題を認識する回答者もいる**

特に関心の無い回答者では、地元の課題や歴史を示すことで意見が変わる回答者も存在する

6. 登録モニター調査（WEBアンケート）

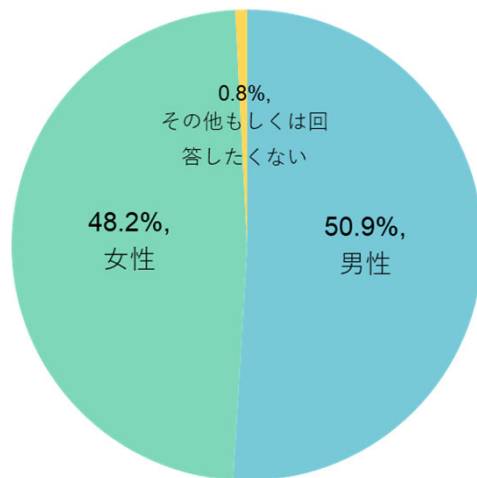
登録モニター調査

WEB調査

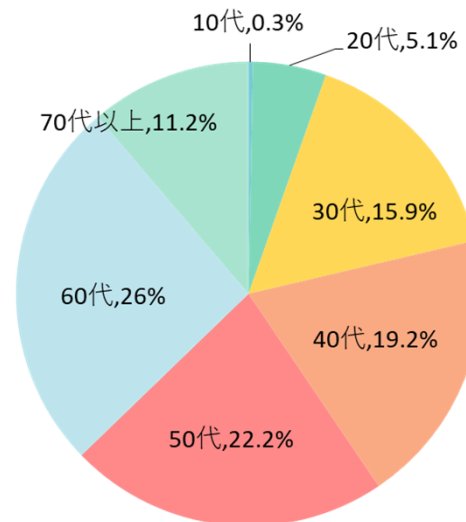
【実施概要】

目的	意識調査の実施に先立ち、登録モニター調査で得られた意識・意向の傾向をもとに調査を組み立て、偏りのない回答を得られることを確認するWEBアンケートを実施
対象者条件 サンプル数条件 (括弧内はサンプル実数)	以下のグループごとに居住地・性別・年代の母集団に準拠して回収 ① 国道20号線沿い町丁居住者町丁目居住者:750名以上(766名) ② ①以外の東京都居住者:750名以上(803名) ③ その他地域(日本国内):750名以上(852名)

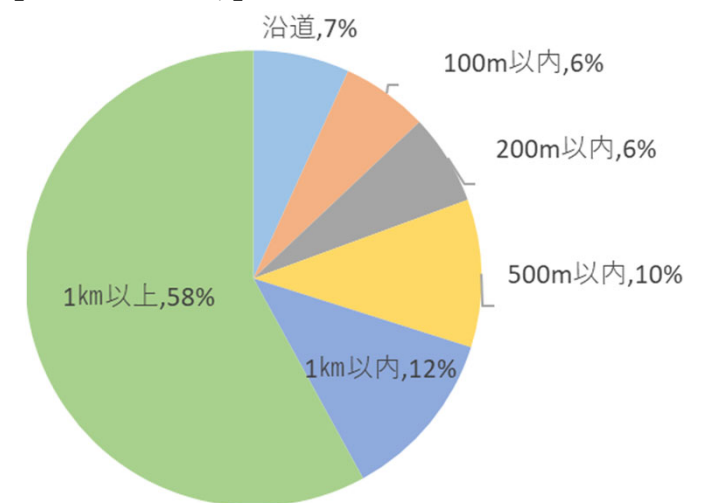
【性別】



【年齢層】



【沿道からの距離】



おおむね性別、年齢等偏りなく調査実施。

作成したアンケート票および選択肢で偏りの無い回答を得られることを確認した。

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【実施概要】

目的	意識調査アンケート票を作成し、広く一般の意見を把握し、社会的合意形成に向けた意識を明確化する
調査方法	インターネット調査、ポスティングによる調査
周知方法	・東京国道プレスリリース ・区報（世田谷区・杉並区） ・ケヤキ並木沿線に接する町丁目居住の住居・事務所へのポスティング（約5万7千通） ・ケヤキ並木にお知らせ（二次元バーコード貼付）のポスター設置
調査期間	令和6年1月4日～2月9日
回答者数	6189名

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート回収結果】

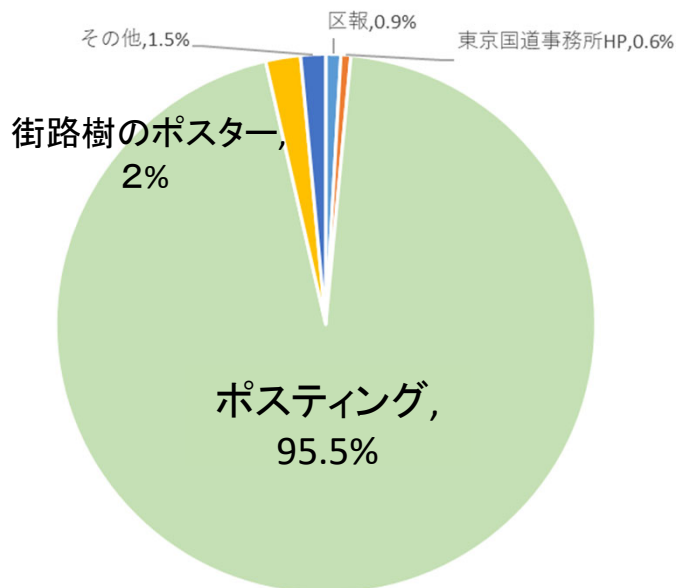
配布したアンケート(DM約5万7千通)に対して回答(約5,900)が1割以上となっており、無償でのアンケート回収率として一般的なアンケートと比べても十分な回答数となった。

	全数	WEB回答	郵送回答
回答者数	6189名	1744名	4445名

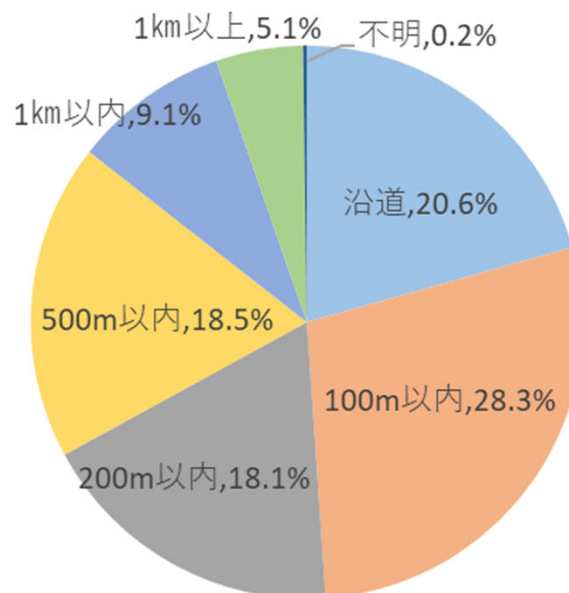
【アンケート結果】

沿道の住民を対象に実施したポスティングおよび街路樹のポスターを見て回答した方が97.5%。

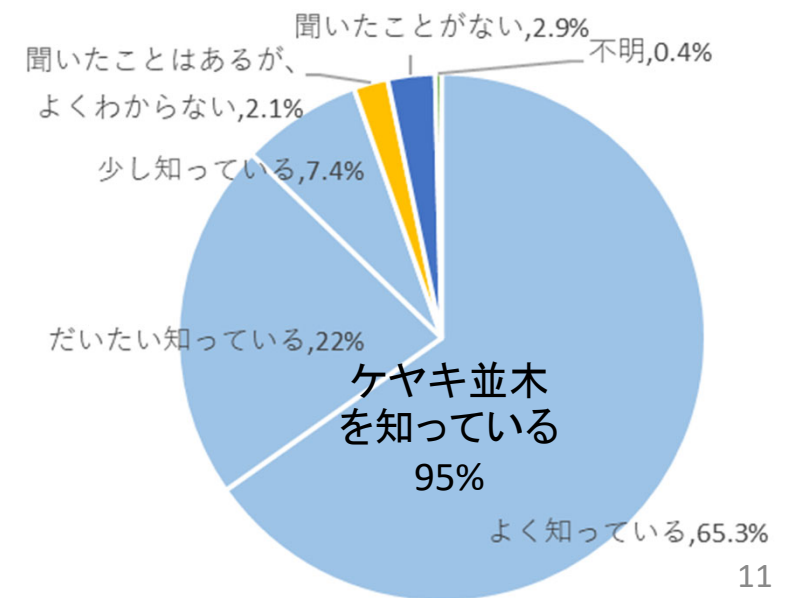
【どこでアンケートを知ったか】



【沿道からの距離】



【ケヤキ並木の認知度】



7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

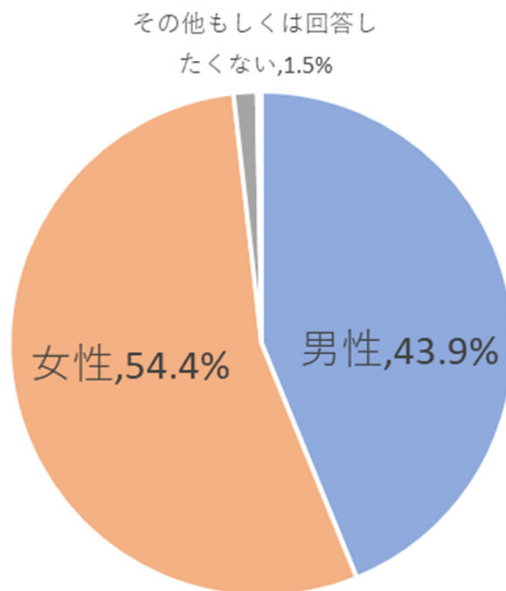
一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

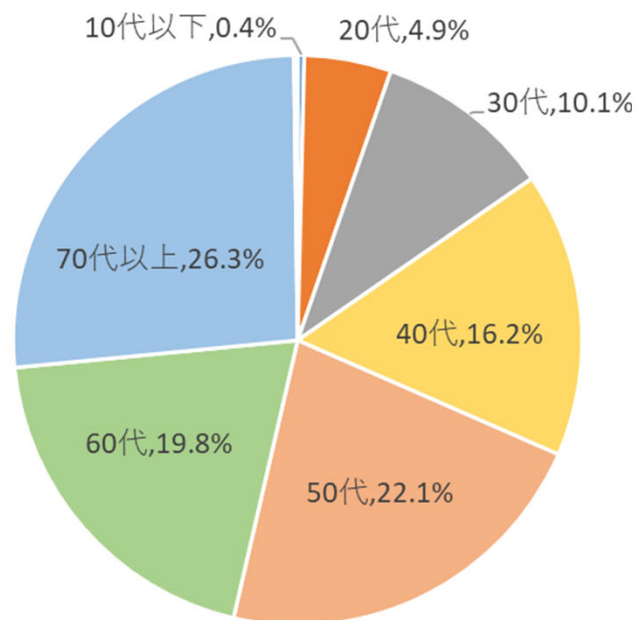
○属性

性別、年齢など回答者の属性に大きな偏りは確認されなかった。

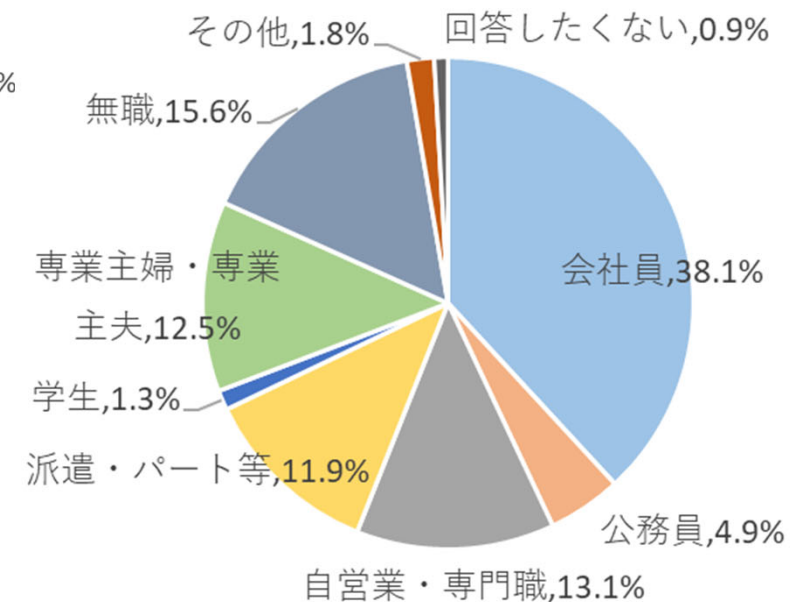
【性別】



【年齢層】



【職業】



おおむね性別、年齢等偏りなく調査実施。
R20ケヤキ並木を知っている方の回答が多い。

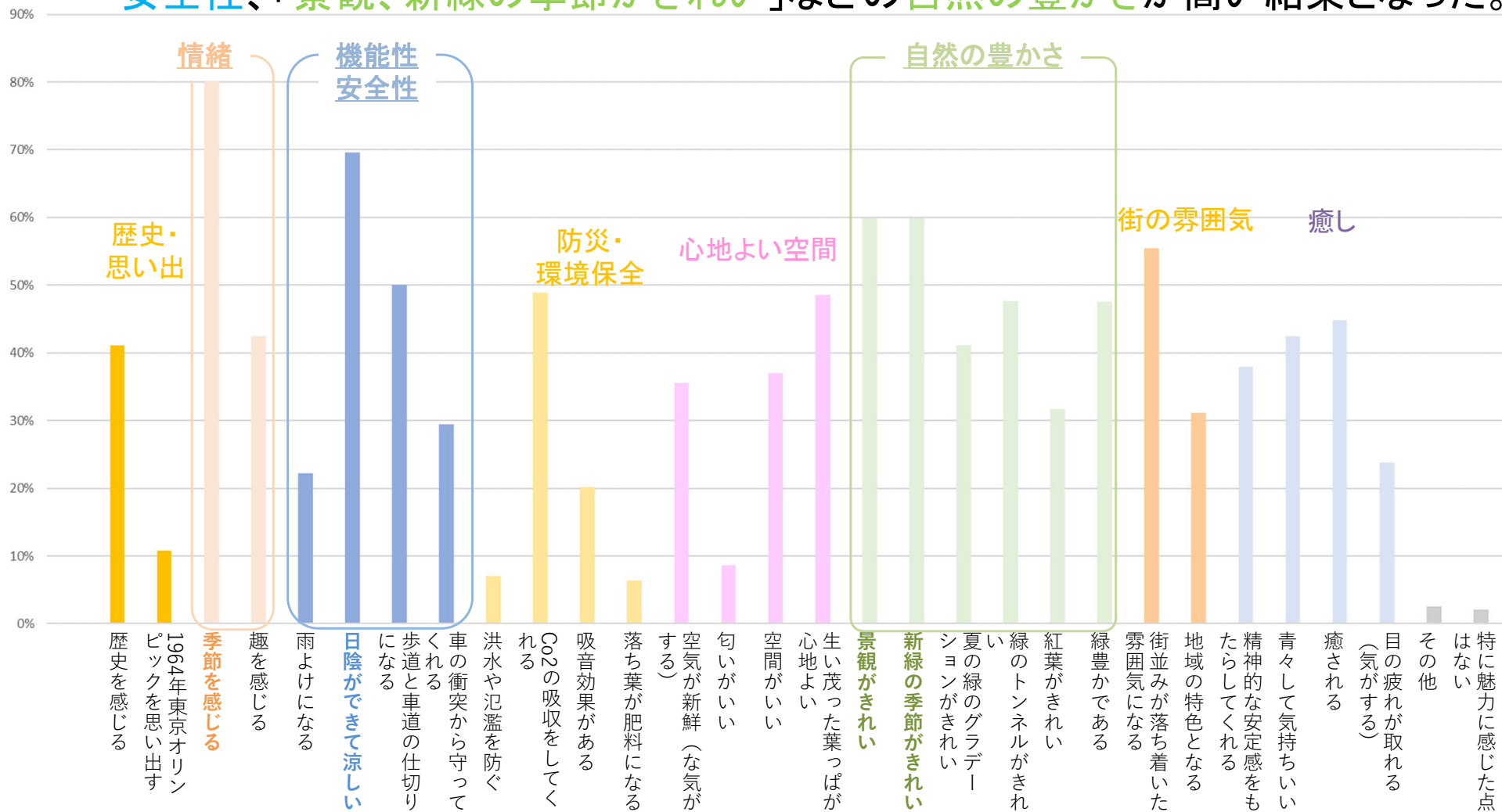
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○魅力（複数回答）

「季節を感じる」などの情緒が最も回答率が高く、次いで「日陰」などの機能性/安全性、「景観、新緑の季節がきれい」などの自然の豊かさが高い結果となった。



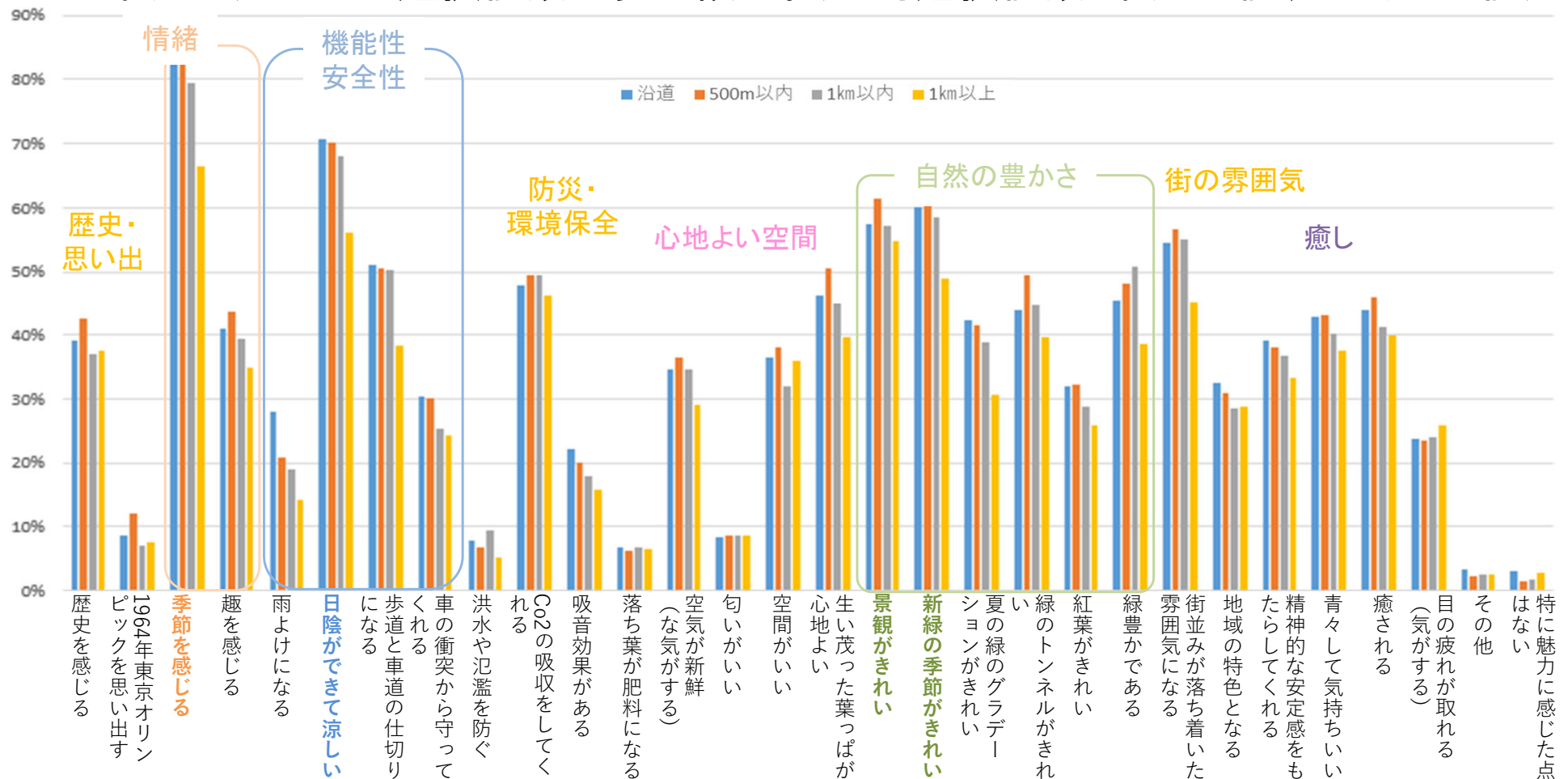
7. 一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

【アンケート結果】

○魅力_距離別(複数回答)

沿道に近いほど選択個数が多い傾向。(平均選択個数:沿道11個、1km以上9個)



「情緒」「機能性/安全性」「自然の豊かさ」など様々な魅力を感じている。
R20ケヤキ並木に近い人ほど魅力を多く感じている。

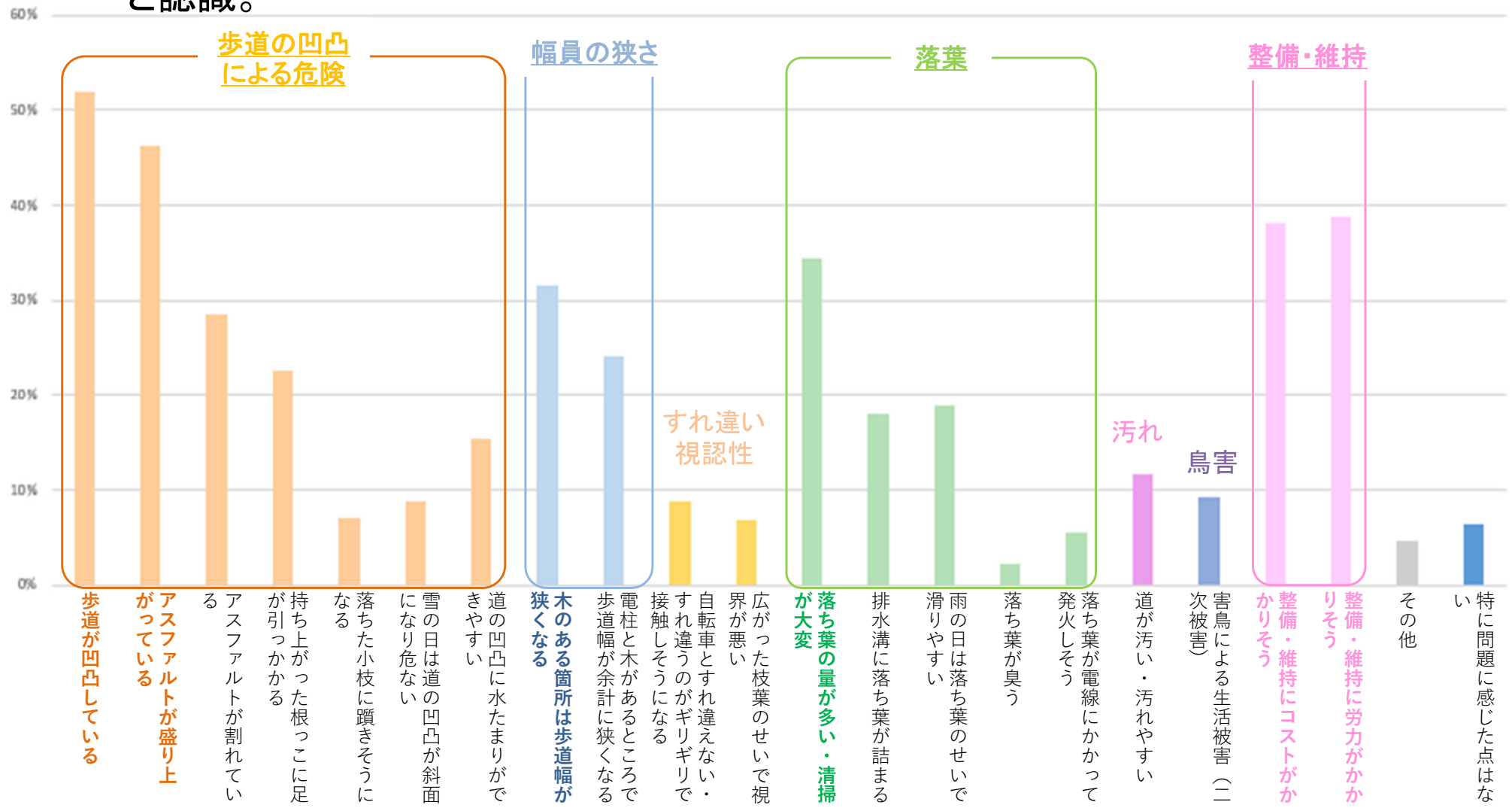
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○歩道課題（複数回答）

「歩道の凹凸による危険」「幅員の狭さ」「落葉」「整備・維持」を多くの方が課題と認識。



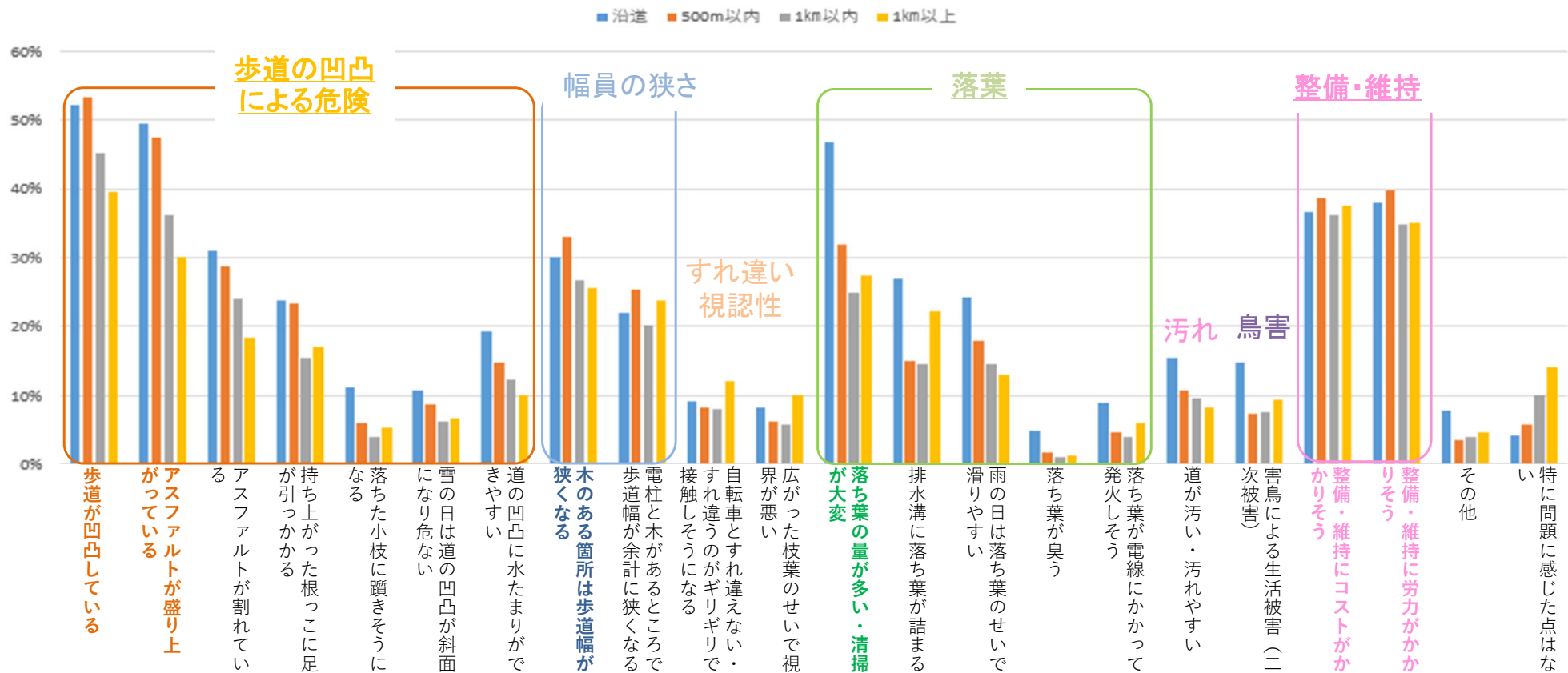
7. 一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

【アンケート結果】

○歩道課題_距離別(複数回答)

沿道に近いほど選択個数が多い傾向。(平均選択個数:沿道5個、1km以上3.8個)

沿道の「**落葉の量が多い・清掃が大変**」の回答率が他に比べて高くなっている。**整備・維持**は距離に関わらず高い回答率となっている。

「歩道の凹凸による危険」「幅員の狭さ」「落葉」「整備・維持」など課題を認識。
R20ケヤキ並木に近い人ほど落葉に関する課題を回答する方が多い。

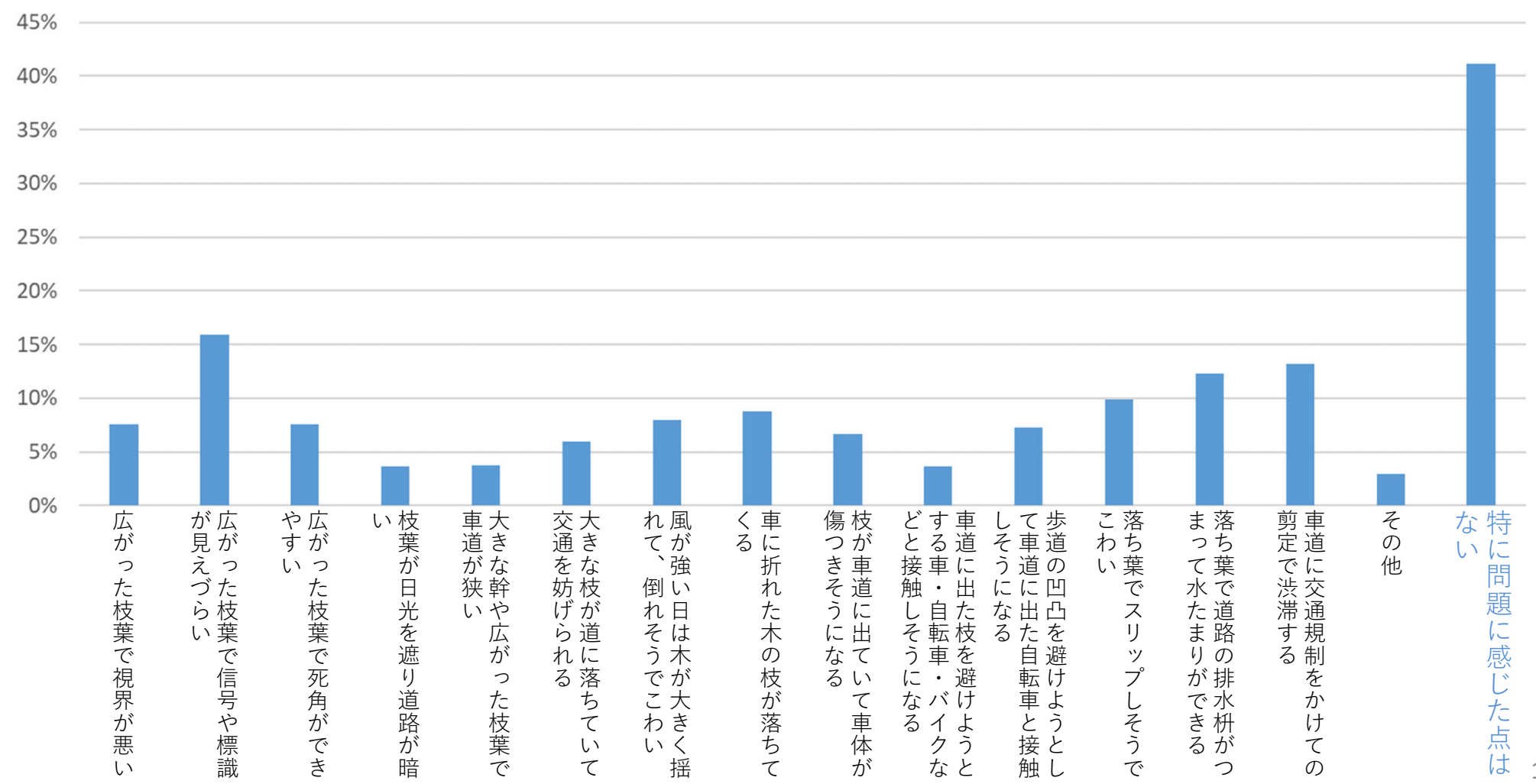
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○車道課題（複数回答）

「特に問題に感じた点はない」という回答が最も多かった。



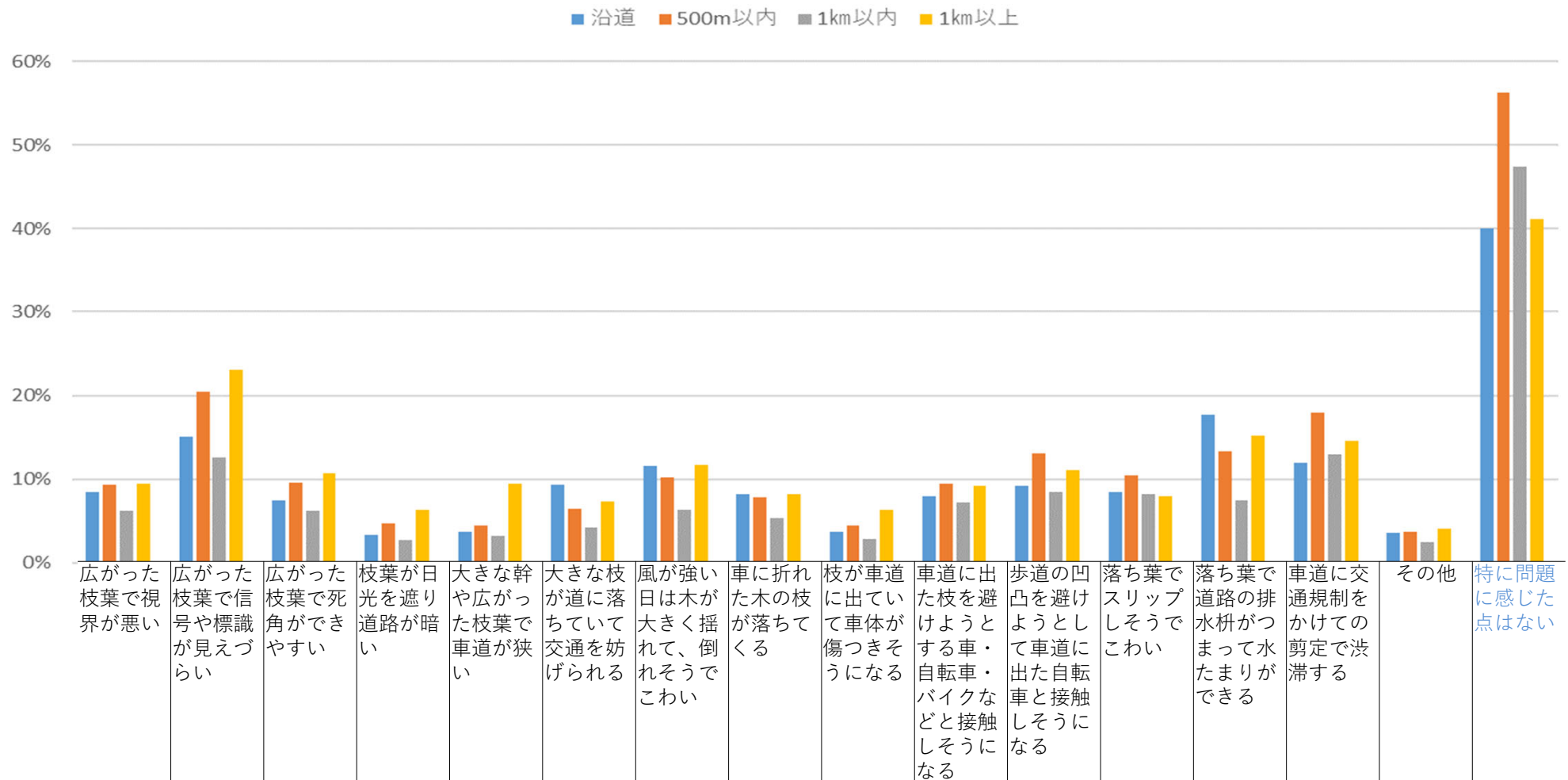
7. 一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

【アンケート結果】

○車道課題_距離別(複数回答)

距離別の明確な傾向は確認されなかった。



歩道と比べると車道に対しての課題を多く見られない。

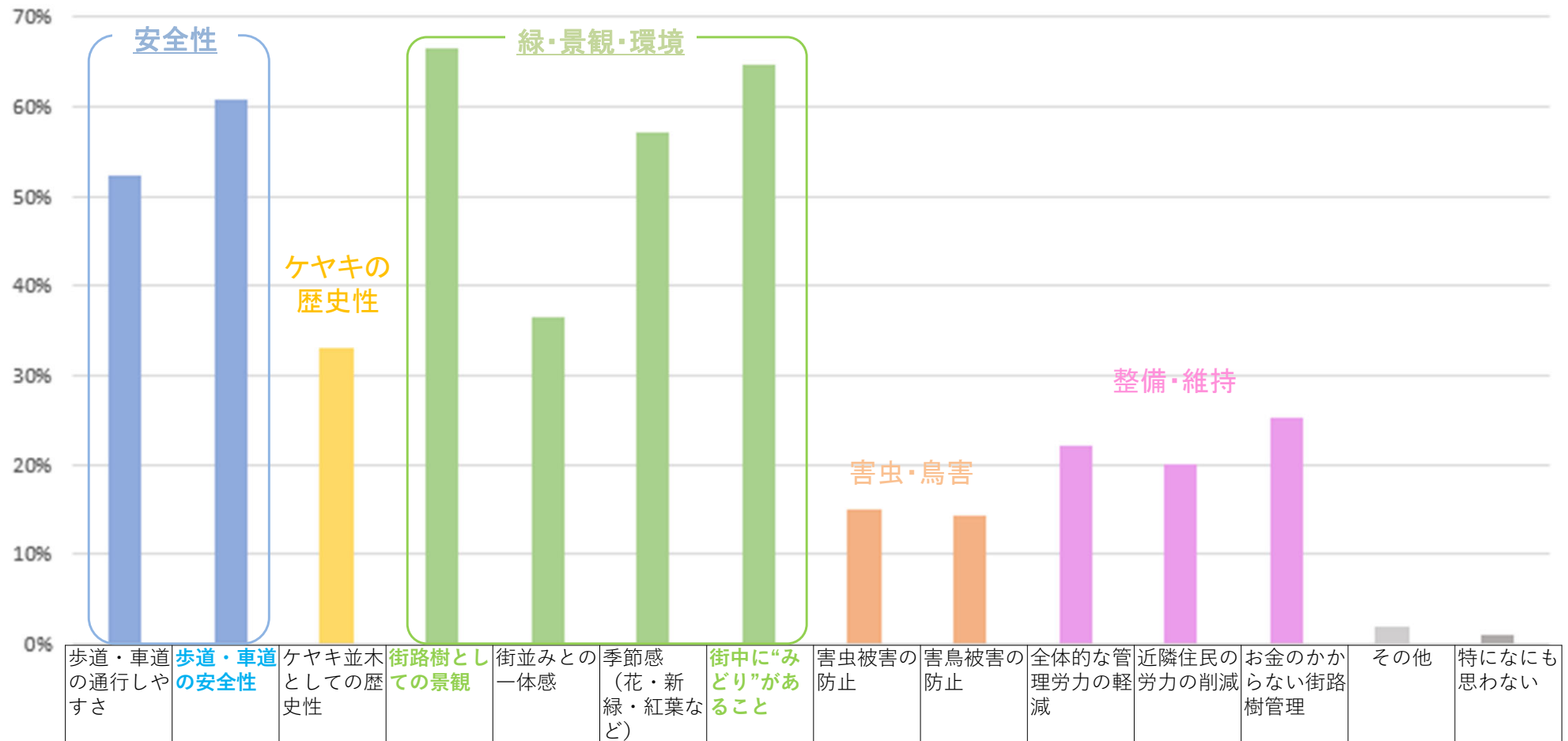
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○重視する点（複数回答）

「歩道・車道の安全性」などの安全性、「街路樹としての景観」「街中に”みどり”があること」などの緑・景観・環境の回答率が高い。



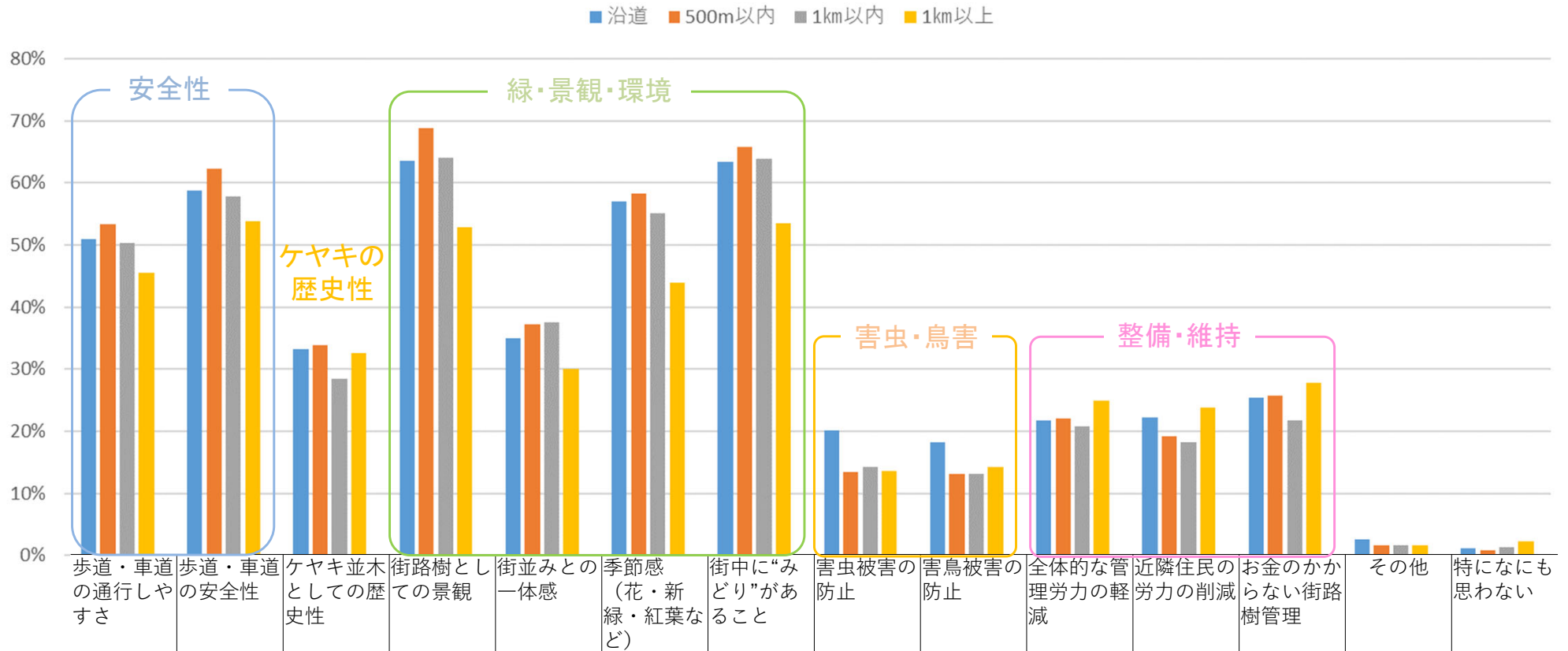
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○重視する点_距離別（複数回答）

沿道から近いほど**安全性**、**緑・景観・環境**の回答が多い。一方で**整備・維持**に関する選択肢は距離に関係なく一定数回答を確認。



多くの回答者が「安全性」、「緑・景観・環境」を重視している。

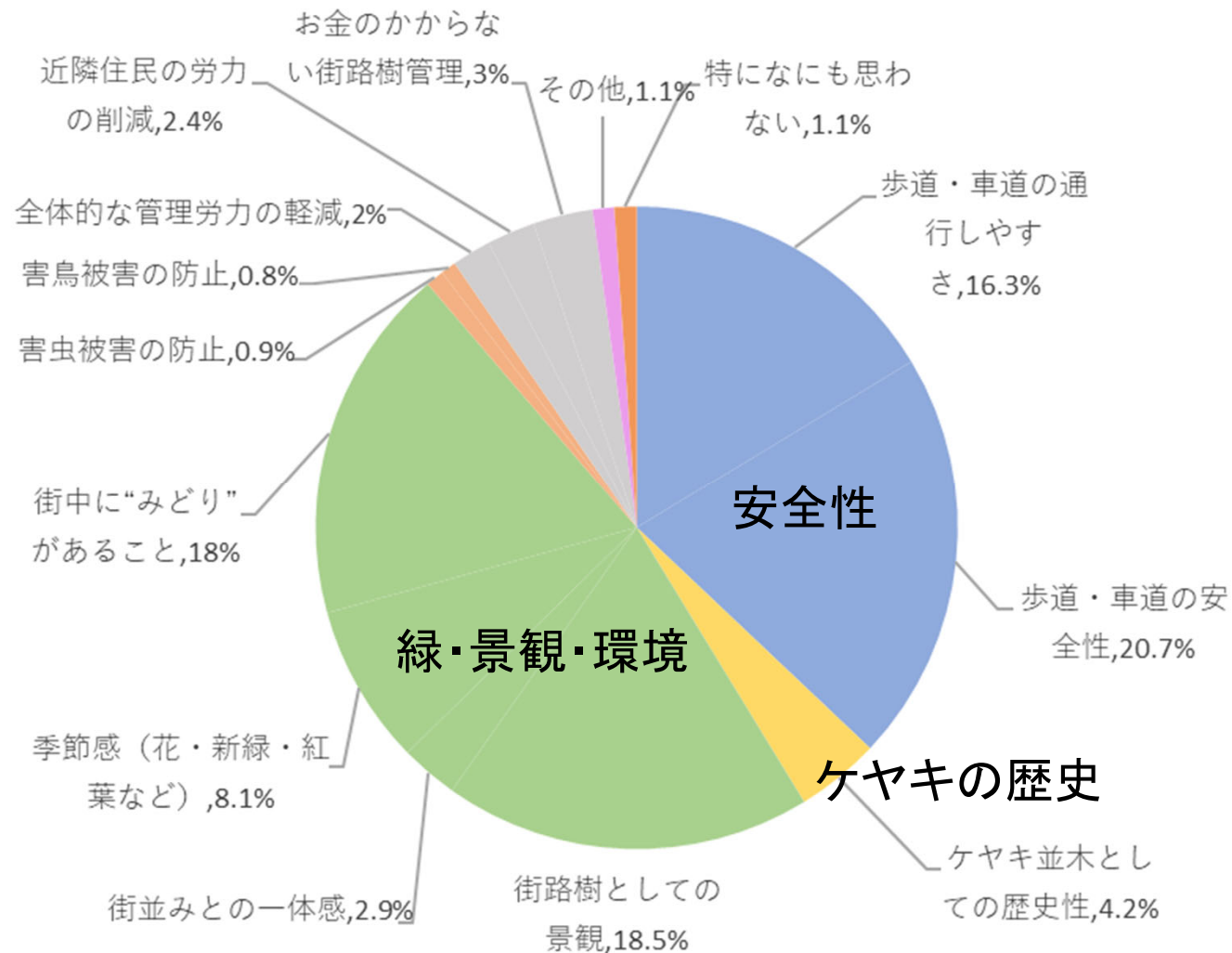
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○重視する点（択一回答）

「安全性」が約40%、「緑・景観・環境」が約50%を占める結果となった。



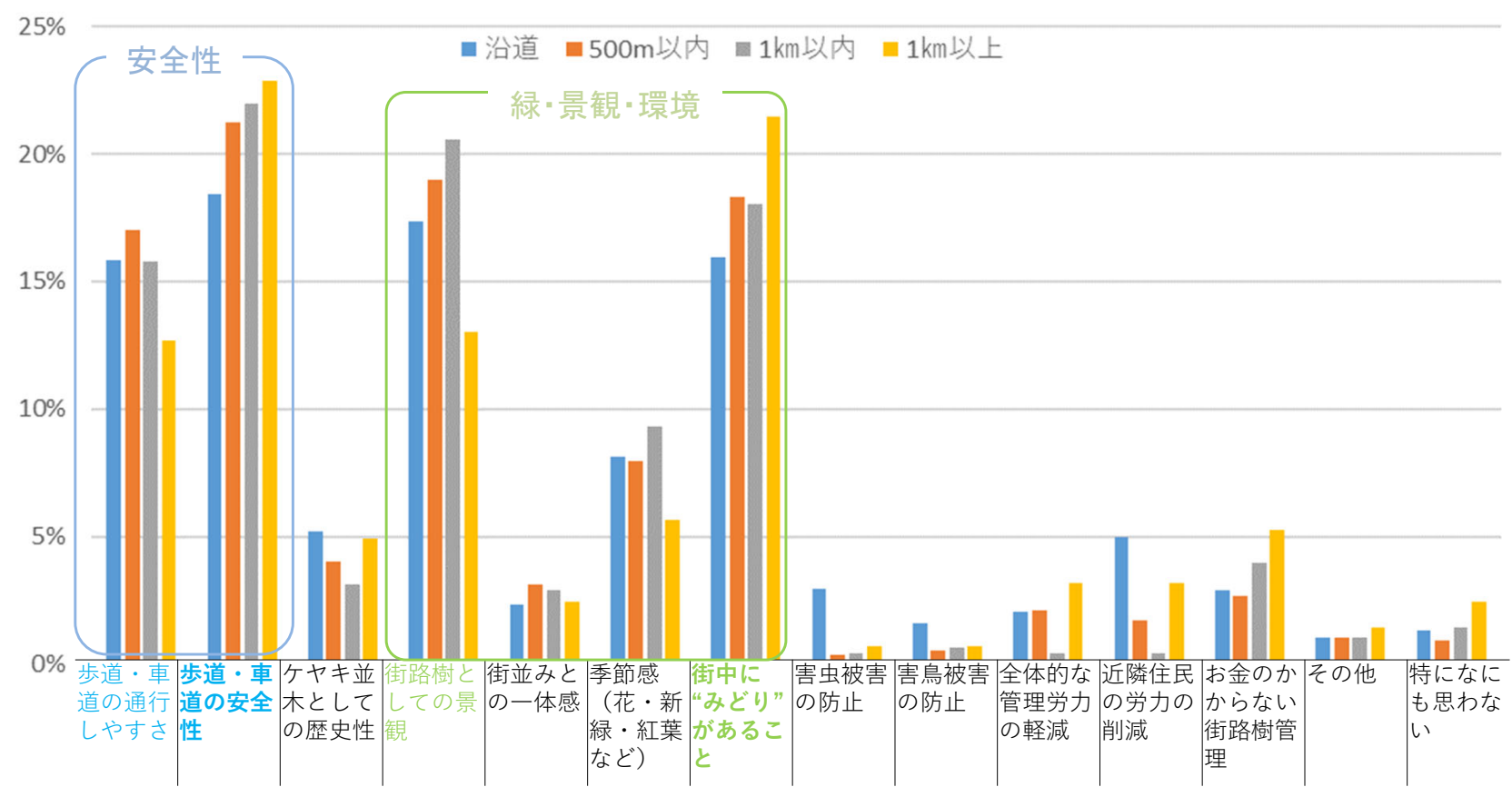
7. 一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

【アンケート結果】

○重視する点 (択一回答)

「歩道・車道の安全性」「街中に“みどり”があること」は沿道から離れるほど回答率が高かった。沿道に近い方は「通行しやすさ」「景観」の回答率が高かった。



重視するものの1つの場合「安全性」、「緑・景観・環境」を重視している。

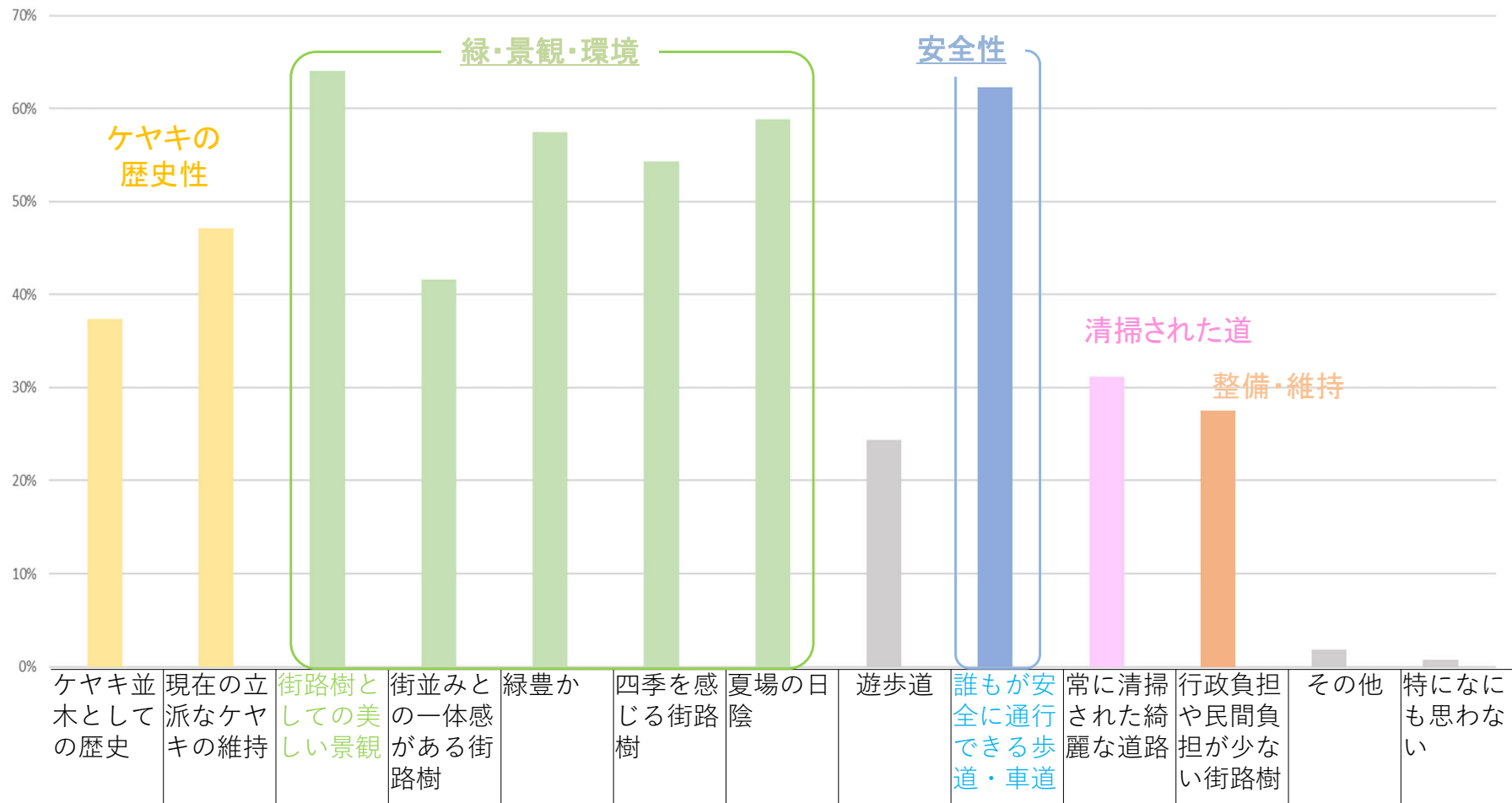
7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【アンケート結果】

○理想の姿（複数回答）

「街路樹としての美しい景観」などの緑・景観・環境、「誰もが安全に通行できる歩道・車道」の安全性の回答率が高い。



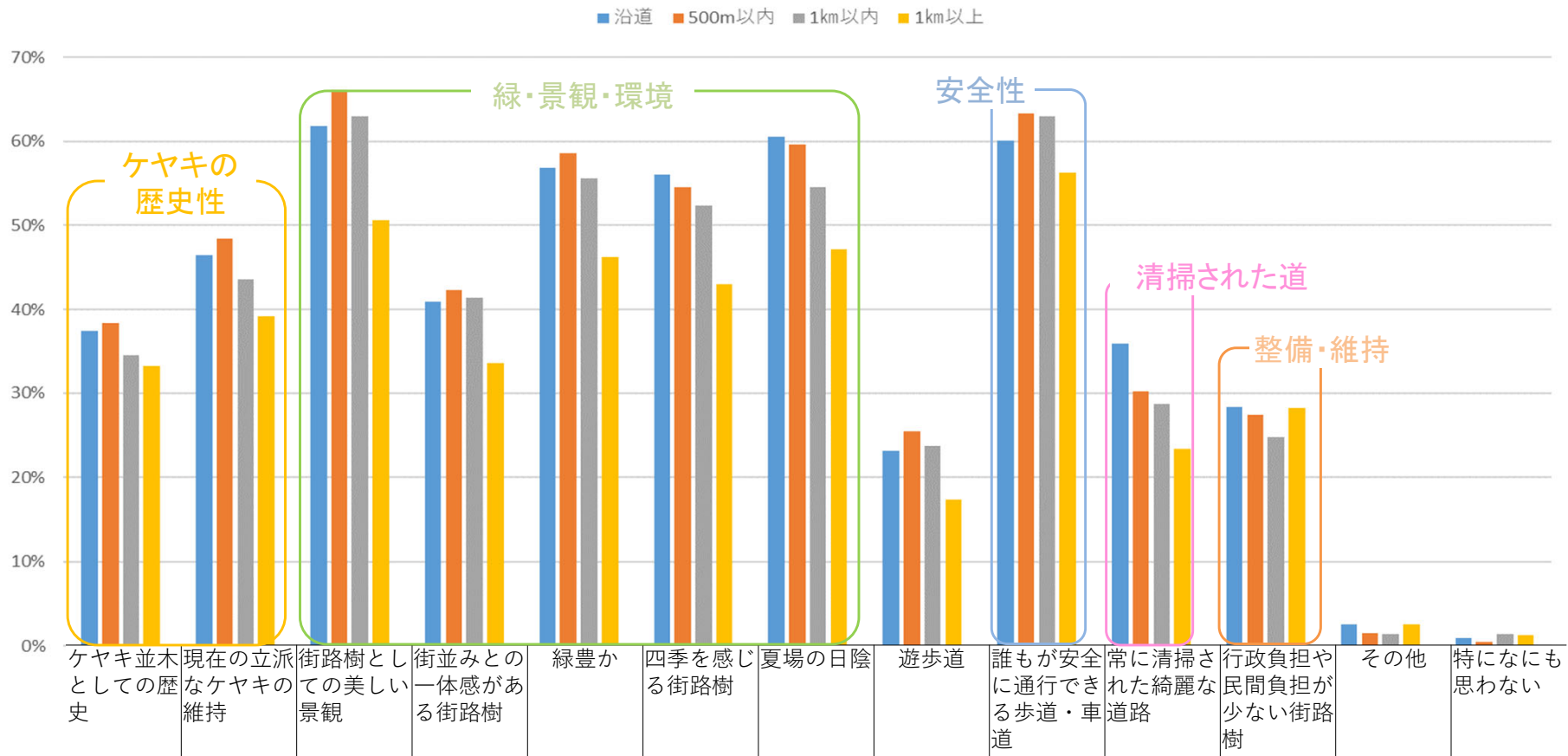
7. 一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

一般向け意識調査 (WEBアンケート、沿道へのDM)

【アンケート結果】

○理想の姿_距離別 (複数回答)

沿道に近いほど選択個数が多い傾向。(平均選択個数: 沿道5.1個、1km以上4.2個)



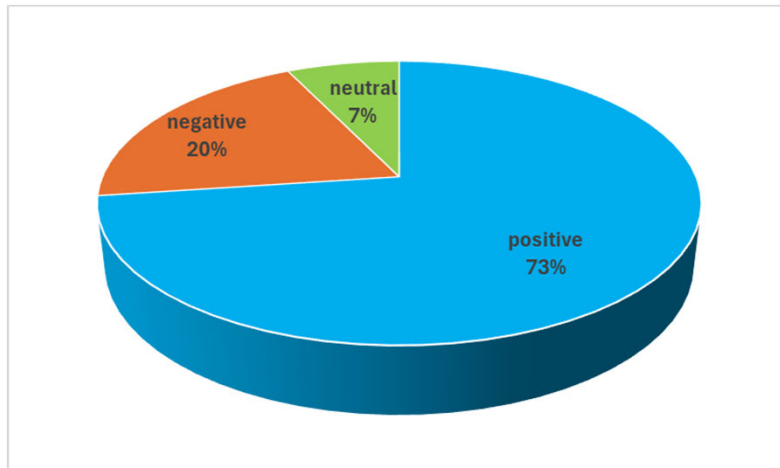
「緑・景観・環境」「安全性」「ケヤキの歴史性」を理想の姿の要素としている

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

自由回答欄への意見

○自由意見は、アンケート回答総数6189の内、3418件

○AIによる感情分析では、多くが課題を認識・指摘しながらも、ケヤキ並木に対してポジティブな傾向の回答が多数を占めた



※AIによる感情分析は自由意見の原文の単語や表現等から回答者の意識を判定するもの

【自由回答におけるキーワードの出現傾向】

- 一般的な概念の語（安全・緑・景観・歴史・管理等）の中では「緑」「管理」への言及が多い
- 「自転車」「落葉」「清掃・掃除」等、生活感覚に近い課題項目が多く出現する

※キーワードは1回答に複数回出現した場合出現数をカウント

回答に含まれる主なキーワード

		キーワード 出現数
安全性に係るもの	自転車(すれ違い・怖い等)	345
	安全	262
	通行・交通	229
	危(危険・危ない)	227
	狭	172
緑・景観・環境に係るもの	緑・みどり	784
	景観	433
	季節・四季	291
	美	216
	日陰・木陰	168
歴史性に係るもの	歴史	173
	ケヤキ・並木の維持	129
	オリンピック	48
維持管理に係るもの	落葉	622
	管理	558
	清掃・掃除	447
	コスト・費用・お金	266

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

自由回答欄への意見

AIを用いて各コメントを要約、全意見から集約した上で整理

●安全性に係る主な意見

歩道が狭いこと、また車道も狭いため自転車が歩道を通行することで、歩行者・自転車それぞれに危険を感じる

- 歩道の幅が狭く、ベビーカーや車椅子の通行に支障がある。
- 自転車と歩行者がすれ違う際に危険を感じることもある。

根上による凹凸や歩車道の段差などによる安全性の懸念や通行しにくさを感じる

- 根上がりによる歩道の凹凸は、高齢者等の移動の妨げとなっている。
- 歩道上等の段差が、歩行者や自転車の安全な通行に支障となっている

倒木や枝の落下などへの不安を感じる

- 台風などの強風時に倒木や枝の落下が心配である。

その他

- 夜間の歩行と自転車に注意が必要である。

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

自由回答欄への意見

AIを用いて各コメントを要約、全意見から集約した上で整理

● 緑・景観・環境に係る主な意見

季節感や景観が楽しめ、住民の心身にもプラスになっている

- 四季折々の美しい景観を楽しめ、街並みに潤いを与えている。
- 散歩やジョギングなどで季節を感じられる場所となっている。
- 緑豊かな街並みは住民の心の癒しとなり、精神的健康に寄与している。

気温の調節や大気浄化、生物の生息環境などの環境面の価値がある

- 夏は日陰となり涼しく、冬は日光を通して暖かい。
- 温室効果ガス削減や、都市のヒートアイランド現象の緩和など、地球温暖化対策に貢献している。
- 騒音や排気ガスを軽減する効果があり、大気浄化に貢献している。
- 鳥や昆虫など、多様な生物の生息環境を提供しており、都市の生物多様性を守るために重要である。

都市の貴重な緑、地域のシンボルである

- 都会の緑として貴重な存在である。
- 地域のシンボルであり、住民に親しまれている。

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

自由回答欄への意見

AIを用いて各コメントを要約、全意見から集約した上で整理

●歴史性に係る主な意見

- 東京オリンピックの思い出の場所であり、マラソンコースとしての歴史・記憶がある。
- 長い間地元に住んでいたたり、過去の思い出があり、なじみがある。
- 歴史的・文化的価値があり、後世に伝えたい並木である。

●維持管理に係る主な意見

- 落ち葉の清掃をする方々に感謝している。
- 落ち葉の清掃が周辺住民にとって大きな負担となっている。
- 街路樹の維持管理に多大な労力とコストがかかっている。

7. 一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

一般向け意識調査（WEBアンケート、沿道へのDM）

【一般向け意識調査のまとめ】

①調査対象

おおむね性別、年齢等偏りなく調査実施。
R20ケヤキ並木を知っている方の回答が多い。

②課題

「歩道の凹凸による危険」「幅員の狭さ」「落葉」「整備・維持」など課題を認識
R20ケヤキ並木に近い人ほど落葉に関する課題を回答する方が多い。

③魅力や理想の姿

「情緒」「機能性/安全性」「自然の豊かさ」など様々な魅力を感じている。
R20ケヤキ並木に近い人ほど魅力を多く感じている。
「緑・景観・環境」「安全性」「ケヤキの歴史性」を理想の姿の要素としている。
重視するもの1つの場合「安全性」と「緑・景観・環境」で約9割となる。

ステップ②

1. 意識調査結果の公表

目的：意識調査結果をとりまとめ、国道20号ケヤキ並木に対する意識を公表する。



2. 基本的な考え方（案）の作成と意見聴取

目的：意識調査の結果を踏まえた、国道20号ケヤキ並木の管理に関する基本的な考え方(案)を作成した後、町会長等に意見聴取を行いその結果を踏まえて更新し、基本的な考え方を作成する。



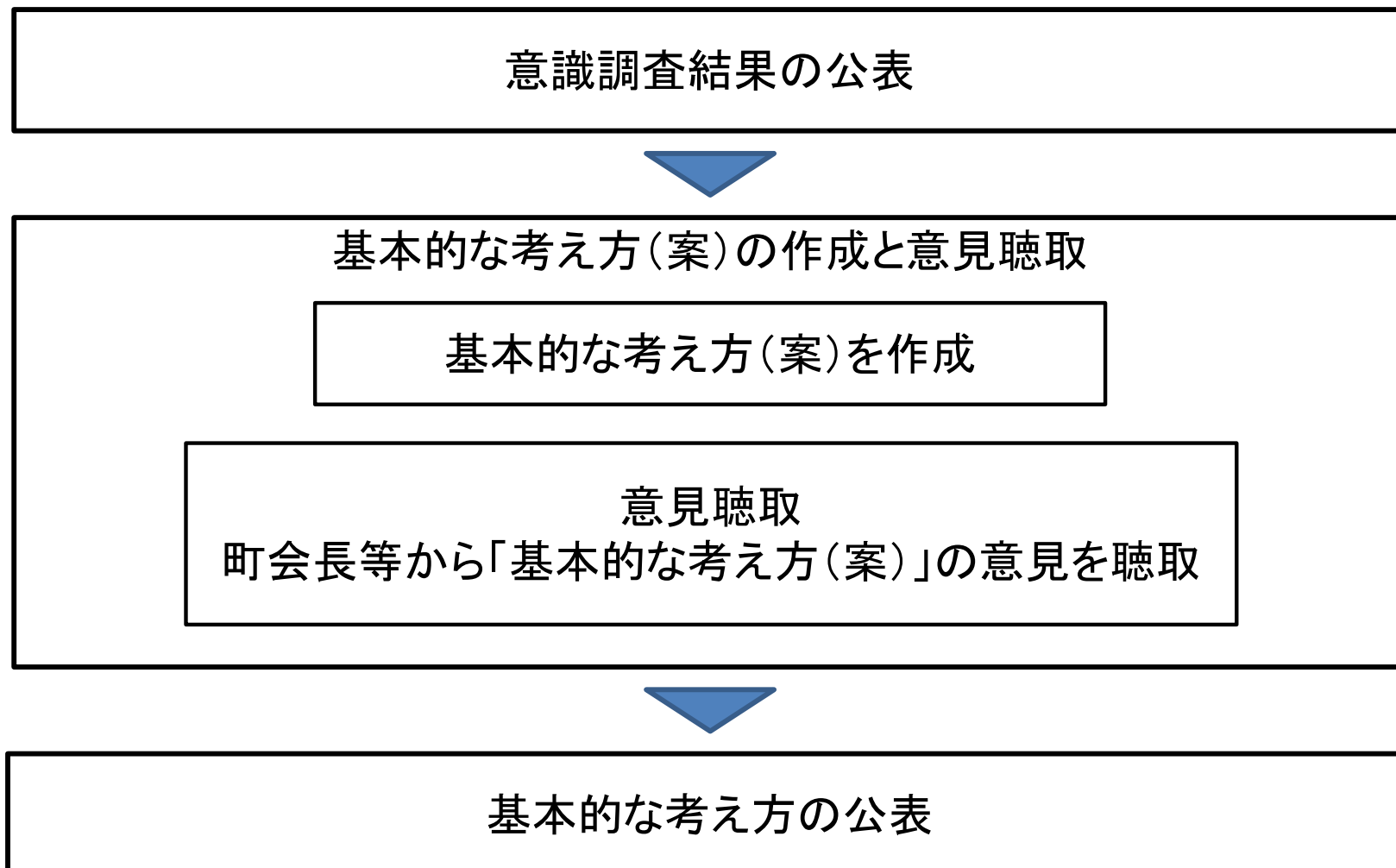
3. 基本的な考え方の公表

目的：国道20号ケヤキ並木の管理における基本的な考え方を公表する。

8. ステップ②将来のあり方に対する社会的合意形成

ステップ②の実施内容

1. 意識調査結果の公表
2. 基本的な考え方(案)の作成と意見聴取
3. 基本的な考え方の公表



9. 基本的な考え方（案）

街路樹の管理に関するベースとなる柱（4本柱）のイメージ

～意識調査の結果を踏まえて～

1. 【みなさまのお声を踏まえ】

町会長やモニターインタビュー、Web・ポスティングアンケートなどの結果をもとに、この区間の街路樹に関心や関係をもっていたいただいている方々の、意識や意向を踏まえた基本的な考え方とします。

2. 【みどり・景観・環境を維持しつつ】

これまで60年にわたってもたらされてきた、グリーンインフラとしての、“みどり”・“景観”・“環境”を継承しつつ、沿道の方々のご理解とご協力も得ながら、これからもできるだけよい状態を維持していきます。

3. 【安全・安心な道路空間を目指して】

国土の重要な幹線道路であり災害時の緊急輸送道路としての役割を担いつつ、子育て世代や高齢者にも優しい道路として、安全・安心に利用してもらえる道路空間を目指していきます。

4. 【道路管理者として管理を徹底】

1～3のグリーンインフラの継承や安全安心な道路空間の考え方を踏まえつつ、道路管理者として街路樹の維持・保全や危険樹木の植え替えなども含めた管理を徹底していきます。

9. 基本的な考え方（案）

国道20号(甲州街道)のケヤキ並木区間 今後に向けた基本的な考え方について

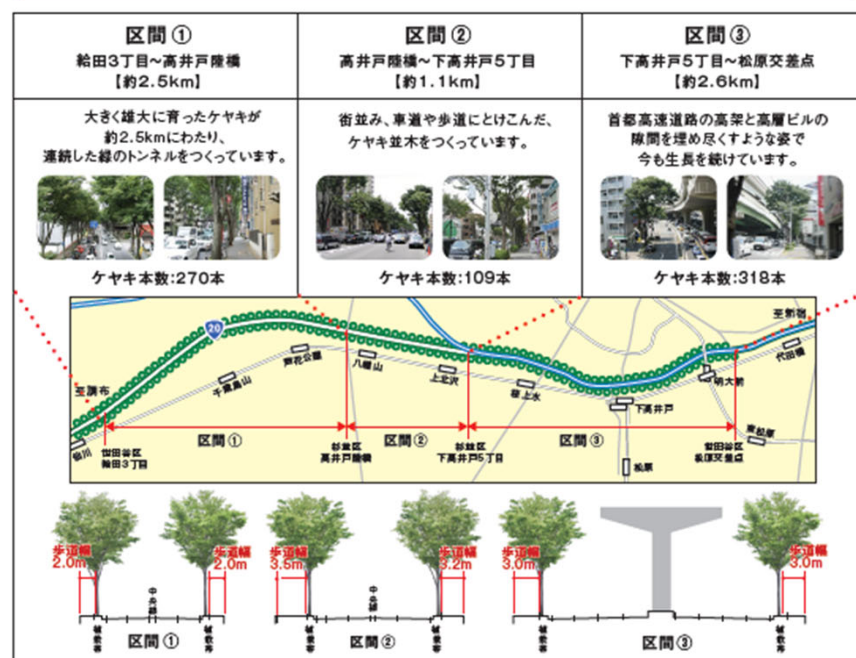
東京国道事務所では、将来にわたって国道20号においてケヤキ並木のある道路空間はどうあるべきか、そしてどう維持していくのかを検討していく必要があると考え、その検討にあたっては、管理者側の都合だけではなく、道路利用者や沿道の方々の考えも「お声」として取り入れることが重要と考えました。みなさまから頂いた「お声」を取り入れた、目指すべき安心・安全で緑のある道路空間を実現するための基本的な考え方を整理いたしました。

国道20号(甲州街道)のケヤキ並木の成り立ち

国道20号(甲州街道)は、江戸時代に整備された五街道の一つで江戸と信濃国を結ぶ道として古くから栄えました。昭和30年代の後半に東京オリンピック開催に向けて、道路の拡幅などの整備が行われ、今では立派な並木となったケヤキはこの時に沿道に植樹されたものです。

当時畑が多く見られた沿道の風景は、今はすっかり変わり、ケヤキも約60年の間に大きく成長し、緑豊かな並木道が数キロに渡って続く景観を形成しています。現在の国道20号は、都心と多摩地区を結ぶ幹線道路であり、沿道には住宅地等が連担しています。

ケヤキ並木区間の現況



ケヤキ並木の役割と維持していくための課題

ケヤキ並木が果たす効果

● 街の景観を美しく、親しみやすく
・ ケヤキ並木は、街並みを彩ります。



● 道路の安全性を高めよう
・ 歩道と車道を分離して歩行者の安全を確保しています。



● 様々な生き物の休息の場
・ 鳥や昆虫にとって、ケヤキ並木は都会の中の数少ない休息場所になります。



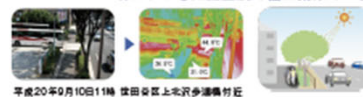
● 災害の拡大を防ぎます
・ 火事が起きた際には、ケヤキ並木があることで車道への影響を小さくしてくれます。



● 暮らしの環境を守ります
・ 強い日差しを和らげます。
・ 空気をきれいにしてくれます。
・ 雨水を受け止め、地中に浸透させます。
・ 二酸化炭素を吸収し、酸素を放出します。



緑による路面温度の低減効果の一例



ケヤキ並木を維持していくための課題と取り組み

課題と取り組み

● 枝の剪定(せんてい)をしています
・ 枝や葉で視界や照明灯が隠れてしまうため、枝葉の剪定を行っています。

● 歩道や車道を清掃しています
・ 国道20号をきれいに保つため、また排水溝を詰まらせないため、歩道や車道の清掃を行っています。

● ケヤキの健康診断をしています
・ 台風等による倒木を防ぐため、ケヤキの健康診断を行っています。

枝や葉で視界や照明灯が隠れてしまうため、枝葉の剪定を行っています。



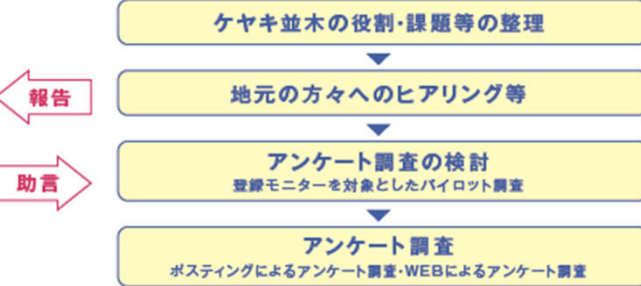
ケヤキの成長による新たな課題



みなさまの「お声」の集め方

東京国道事務所では、「持続的な街路樹管理に関する検討委員会」を設置し、有識者からの助言を受けながら、次のような手順・方法で沿道にお住まいの方、道路を利用される方をはじめとするみなさまの「お声」をお伺いしました。

持続的な街路樹管理に関する検討委員会



9. 基本的な考え方（案）

国道20号（甲州街道）に対してのみなさまの「声」

アンケート結果からは、沿道にお住まいの方々を中心に落ち葉や歩道の凹凸などの安全な道路通行や清掃に関するお困りごとがある一方で、季節感や緑陰などの「まちのみどり」による魅力があり、今後もみどりを残していきたいとの「お声」が多く集まりました。

ケヤキ並木に感じる魅力

情緒

- ・季節を感じる
- ・癒を感じる

環境保全

- ・二酸化炭素の吸収

自然の機能

- ・日陰で涼しい
- ・歩車道の仕切り

歴史

- ・東京オリンピックを思い出す
- ・歴史を感じる

自然の豊かさ

- ・景観がきれい
- ・新緑がきれい

上記の他、数多くの魅力を回答いただいています。

ケヤキ並木に感じる困った点

並木に近い方の回答

並木に遠い方の回答

落葉

幅員の狭さ

歩道の凹凸

整備・維持のコスト/労力

沿道に近い方ほど多くの困りごとを感じています。

国道20号（甲州街道）に求める理想の姿

街路樹としての 美しい景観

四季を感じる 街路樹

緑豊か

街路樹の恩恵

安全に通行できる 歩道・車道

行政/民間負担が 少ない街路樹

常に清掃された きれいな道路

課題の解消

街路樹の恩恵の存続と課題の解消

この2つの両立を求める声が多く寄せられました。

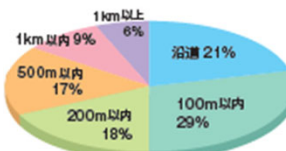
街路樹の恩恵
25%

両立
63%

課題の解消
9%

その他 3%

アンケート調査は、ケヤキ並木の沿道やお近くにお住まいの方々（右図）を中心に、約6,000名の方々にご回答いただきました。



自宅・事務所とケヤキ並木との距離

国道20号（甲州街道）街路樹の 今後に向けた基本的な考え方（案）

東京国道事務所では、将来にわたり国道20号におけるケヤキ並木のある道路空間はどうあるべきか、そしてどう維持していくのかを検討していくに際し、みなさまから頂いた「お声」を取り入れた、目指すべき安心・安全で緑のある道路空間を実現するための基本的な考え方を整理いたしました。

①【みなさまのお声を踏まえ】

町会長やモニターインタビュー、Web・ポスティングアンケートなどの結果をもとに、この区間の街路樹に関心や関係をもっていたいただいている方々の、意識や意向を踏まえた基本的な考え方とします。

②【みどり・景観・環境を維持しつつ】

これまで60年にわたってもたらされてきた、グリーンインフラとしての、「みどり」・「景観」・「環境」を継承しつつ、沿道の方々のご理解とご協力も得ながら、これからもできるだけよい状態に維持していきます。

③【安全・安心な道路空間を目指して】

国土の重要な幹線道路であり災害時の緊急輸送道路としての役割を担いつつ、子育て世代や高齢者にも優しい道路として、安全・安心に利用してもらえる道路空間を目指していきます。

④【道路管理者として管理を徹底】

①～③のグリーンインフラの継承や安全安心な道路空間の考え方を踏まえつつ、道路管理者として街路樹の維持・保全や危険樹木の植え替えなども含めた管理を徹底していきます。

国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所 管理第二課

〒102-8340 東京都千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎

TEL03-3512-9097 FAX03-3512-9154

10. ステップ③課題に応じた地域や区間毎の対策の試行・モニタリング

ステップ③

1. 基本的な考え方を踏まえた具体的な目標および対応策（案）の検討

目的：意識調査を踏まえた将来の方向性を具体化するため、基本的な考え方を踏まえた具体的な目標やそれを実現する対応策（案）について検討を行う。



2. 試行区間における現場試行（案）の検討および意見聴取

目的：国道20号ケヤキ並木区間の一部を試行区間として、対応策（案）を踏まえて現場試行（案）を検討した上で、意見聴取し、現場試行（案）を調整する。



3. 現場試行・モニタリング

目的：現地の更新時期において、現場試行（案）を実施し、現地状況や意見聴取・モニタリングを行う。

1 1. ステップ④管内における対策・合意形成のルール策定

ステップ④

1. 現場試行（案）の評価

目的：現場試行（案）について意見聴取した結果を評価する。



2. 東京国道管内全体に活用できる対策・合意形成のルールを策定

目的：現場試行（案）の評価を踏まえ、東京国道管内全体に活用できる対策・合意形成のルールを策定する。

1 2. 今後のスケジュールと進め方について

